日本倶楽部会報

令和４年10月 第34号

～ 講 演 委 員 会 便 り ～

（講演会内容は、オフレコでありますが、ご参考のため、講演委員の感想文の形でまとめたものです。
文責は講演委員会にあります。）

令和４年５月６日（金）
講師　東京国際大学 特命教授
村井 友秀 氏
演題　**ウクライナ戦争と東アジアの安全保障**

講師は、約30年間にわたり防衛大学教員としてナショナルインタレストを重視した日本の安全保障問題の在り方について積極的な論陣を張ってきた。事前の講演会キャッチコピーで、「時には、タカ派的要素の強い国際政治学者と見られたこともあった」と紹介したところ「自分では重武装の鳩だと思っている」との予想外のコメントがあった。

講師は、1984年刊行の「失敗の本質」（6人の研究者の共同執筆）に最若手の執筆者として、日中戦争、太平洋戦争における旧日本軍の事例研究で高い評価を得た。こうした実績を踏まえたうえで今回の講演では、この2月24日に開始され長期化の予想されるロシア軍のウクライナ侵攻（ロシア側の言い方は「特別軍事作戦」）の性格、現状、見通しについて分析してもらった。

現在では、日本の安全保障問題の学会の重鎮で、「日本防衛学会会長」、「国際安全保障学会理事」、「防衛省新防衛政策懇談会委員」等を務める。講師の日本倶楽部における講演は3回目で、前回（令和3年6月）のテーマは「日本の危機と東アジアの戦争」。

講演の主要ポイントは以下のとおり。

（ロシアのウクライナ侵攻の現状と性格）

○ロシア軍の侵攻開始（2月24日）直後に米国のバイデン政権が「（核戦争及び第3次世界大戦に発展することを回避するために）米軍ないしNATO軍を直接ウクライナに派遣することはない」と声明したことは不用意な行動であった。米軍は直接介入してくることはないとの確信が、ロシア軍が首都キーウを包囲するまで戦線を拡大することを後押しすることとなった。

○ロシアは、2014年のクリミヤ半島併合（含むドンバス州、ルガンスク州の親露派テコ入れ）と今回のウクライナ侵攻の大義名分として、同じロシア人の住む地域の解放と自治確立の支援（及び自治確立次第の集団的自衛権の行使）を掲げているが、これはドイツ人の居住区ないしドイツ語圏の解放と吸収を標榜したナチスドイツ軍による、ズデーテン地方割譲（1938年、チェコスロヴァキアから）、アルザス・ロレーヌ侵攻（1940年、第一次大戦後フランス領）とまったく同じ論理である。

○プーチン政権下の近代ロシア軍が標榜する「ハイブリッド戦争」は、①プロパガンダ工作、②サイバー戦争、③リアルなサイト（戦場）における戦闘行為、の順に進む。もともと共産主義体制は革命遂行のためにプロパガンダ工作には長けている。2008年のジョージア侵攻、2014年のクリミヤ併合は、この一連のプロシージャーが簡単に成功した。しかし、今回のロシアのウクライナ侵攻は①②から③に移行する段階で大きな蹉跌を生じている。ウクライナ軍が、外敵の侵入⇒識別⇒迎撃方針の決定のプロセスで米軍の優れた情報収集力の全面的な支援を受けているからだ。ウクライナ軍の方が先に敵ロシア軍を発見し対応攻撃をしている。さらに、米軍から対戦車砲を含め各種のミサイルの供給を受けている。この段階でロシア軍は実質的に米軍と戦っている形となったからである。

～コロナ感染症問題への対応など（お知らせ）～

長く続きましたコロナ感染症の拡大はようやく収束が見えてきました。会員の皆様にはこの間ご協力いただきありがとうございました。

今後も引き続き感染拡大の防止のため最大限の努力を続けてまいります（入館時の検温、換気、食堂のパネル等。）。会員の皆様もアルコール消毒、館内でのマスク着用等よろしくお願いいたしますが、この機会に会員の活動につきましては、原則平常通りとさせていただきます（午餐会、評議員会は食事付き（人数把握のため予約制）。講演会はディスタンス確保のうえ、人数制限なし、Zoomによるオンラインでの参加は継続。閉館時間は引き続き6時30分。）。

なお、年4回開催しております立食形式の会員懇親会は、本年中は引き続き中止とし、明年1月の新年会からの再開を検討してまいります。

年内は懇親会に代えて会員の交流の機会の確保のため、以下の対応をいたします。

① 11月中を「ワンドリンクサービス」月間とし、食堂利用の方に1人1グラスのワインまたはビールなどをサービスいたします。
② 12月中は、食堂のサービスを利用し、クラブ活動、同好会等会員のみの懇親会を開催する場合は部屋の利用をフリーとし、1人1グラスのワインまたはビールをサービスいたします。
③ 11月以降の午餐会でのアルコール提供を再開致します。

どうぞご利用ください。